

• 学術情報流通の推進に向けた取組み

- ファンド事業におけるオープンサイエンス促進に向けた取組（論文のオープンアクセス化、データ管理計画の策定、論文根拠データの公開）
- 国内コミュニティ育成支援（研究データ利活用協議会、ジャパン・オープンサイエンス・サミット）
- 研究データ利活用に関する国際的枠組の運営（RDA Funder IG）
- 識別子に関する国際イニシアチブ運営への参画（Crossref、Grant ID、ORCID、ROR等）
- 国内学協会・学術機関が発行する学術論文誌等のオープンアクセス化支援、国際発信力強化支援、国際動向対応支援

• 取組みを進める上での課題

- 重要なステークホルダーである研究者（研究成果の創出者であり利用者である）の参画を、より促進する必要がある。
- オープンアクセス基盤の強化のために、国内学術論文誌等のさらなる振興を図る必要がある。

• 取組みを進める上で、他のステークホルダーと連携できること、他のステークホルダーと連携できること等

- ファンド機関と研究機関（研究者およびURA等の支援人材）が連携した新たなオープンアクセス・オープンサイエンス環境（エコシステム）の構築や、オープンサイエンス時代を踏まえた研究評価体系の開発・導入